

# ポラリスを仰ぐ北の大地から



## 映画で世界を平和に

江別医師会 会長 ささなみ てつ お 笹浪 哲雄

私は映画が好きである。映画館に出かけて新作を見ることが好きである。

映画を見て、「面白かった」という思いを記憶しているのは、『스팅』である。1973年、高校3年の夏であった。50年前のことで、なぜ見たのか、だれと見たのかなど覚えていない。しかし、とにかく面白かったことを覚えている。

Stingは「刺す」「刺すような痛みを与える」などの意味だが、映画では「騙す、法外な代金を請求する、ぼったくる」という俗語の意である。主演はポール・ニューマンとロバート・レッドフォード。信用詐欺(コン・ゲーム)を扱った代表的映画の位置づけをされており、大どんでん返しが待っている。

次の作品は、『スターウォーズ』第1作目である。1978年、大学4年生の夏、同級生のM君と見た。今は営業していない、狸小路1丁目にあった帝国座にて。これまでにない作品に感動し、続けて2回も見てしまった。確か入れ替えはなかったと思っているが、1回分の料金で2度見である。M君とは1度目が終わってバイバイした。この初版は後に「エピソード4／新たなる希望」と改題され、シリーズ化された(すべてを見た)。

大学に入学した時、映画を見過ぎて留年し同級生になった高校の1年先輩がいた。おかげで映画にはまることはなかった。

江別には映画館がある。イオンシネマだ。スクリーンが8幕あって、多くの映画を上映している。イオンシネマは全国展開しており、92館。現在、札幌には映画館が中心部(札幌駅やファクトリーなど)にあるのみだ。昔はもっと多くて、帝国座をはじめ、いろんな所で映画を見た。調べてみると、約20年前に多くの映画館が営業をやめていた。ネット社会の影響なのだろう。私も家で時間がある時は、娘がセットしたNETFLIXを利用して、面白そうな映画を探し見ている。でも、換気のきいた映画館で新作を見ることが好きである。

日曜洋画劇場の名物おじさん、淀川長治は「名作映画は、人類にとって最高の芸術である」また「映画とは国と国の垣根をなくす、世界の言葉を持っている」と述べている。映画を見て世界の平和に貢献しよう。

## 行き着く先はブルゴーニュ

千歳医師会 会長 さかもと たかし 坂本 孝志

学生の頃からアルコールが大好きな私ですが、どちらかと言えば日本酒を好んでおりましたが、ワインもたまには飲んでいましたがフランス・ボルドー産赤ワインやドイツ産白ワインがその主たるものでした。

そんな私に人生の転機が訪れます。その当時愛飲していた静岡の銘酒磯自慢が洞爺湖サミットでの公式酒に採用されて以来入手が非常に困難となってしまったのです。とある日曜日買い物の待ち時間にデパートの酒売り場で磯自慢を探してみたのですが売っているはずもありません。仕方がないので代わりにワインでも買ってみようという気になりました。その時偶然購入したフランス・ブルゴーニュの赤ワインが：ヴォーヌロマネー・1級・オーブリュレ・2007年・ドメヌ・ミシェル・グロでした。さっそくその日の晩御飯にあわせて抜栓しました。コルクを抜くと何とも言えぬいい香りが立ち上ってきました。グラスに注いで一口飲んだ直後衝撃が走りました。「美味しい、旨すぎる、私がかこれまでの人生で飲んできたワインとはいったい何だったのだ!」。あっという間にボトル1本が空になってしまいました。

後ほど、ブルゴーニュのワインは同じ畑のブドウでも作り手や年度によって味に大きな違いがあることを知るのですが、この時は僥倖にも最上級の1本が当たったのでした。それ以来すっかりブルゴーニュワインの虜となり現在に至っています。白ワインもドイツからブルゴーニュに鞍替えしました。今では毎日の晩酌の大半がブルゴーニュのワインで、時々日本酒となっています。ワイン飲みの行き着く先はブルゴーニュという言葉があるそうです。これまでにブルゴーニュのワインを飲んだことがない方は一度試してみるのをオススメいたします。新たな世界があなたを待っていることでしょう。ただし、くれぐれも飲みすぎにはご注意ください。

